

日本共産党下関市議団
近藤栄次郎団長殿

桧垣徳雄

行政視察出張報告書

下記のとおり行政視察しましたので、ご報告いたします。

記

1. 日時 2017年4月5日(水)13時30分～15時
2. 視察先 宇部市
3. 視察者 日本共産党下関市議団 4人

近藤栄次郎議員、江原満寿男議員、桧垣徳雄議員、片山房一議員

4. 調査内容

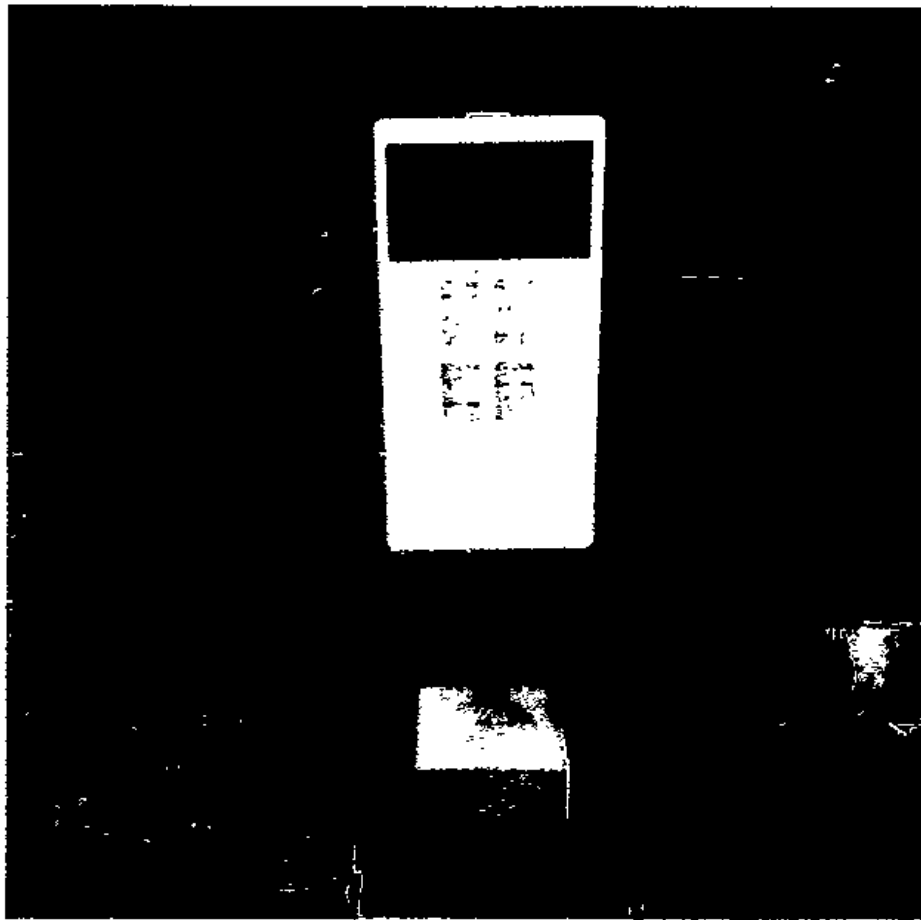
(1) 公共交通について

- ・昨年3月に策定された「宇部市地域公共交通網形成計画」を基に説明を受けました。
- ・宇部市も他の多くの地方都市と同様に、急激な人口減少と少子高齢化の進展、マイカーに依存するライフスタイルの定着などにより、公共交通は利用者減少で苦悩していました。
- ・地域公共交通としては、①鉄道、②路線バス、③地域内交通（コミュニティタクシー、デマンド交通、自家用有償旅客輸送）、④タクシーがあります。

(2) 西宇部地区の取り組みについて

- ・西宇部校区コミュニティタクシーは、小型タクシー（定員4人）を使い、週6日間運行。片道300円（地域内は200円または100円）、小児運賃は半額という運行形態です。
- ・西宇部地域で運営主体をつくり、そこがタクシー会社と契約。市は地域の運営主体に補助金を出すというやり方でした。宇部市にはデマンド交通やコミュニティタクシーが4か所で運行されていますが、それぞれその地域のタクシー会社やバス事業者と契約していました。
- ・西宇部地域には、ふれあいセンターや商業高校、団地、商業施設などがあり、それらを回るコース設定となっていました。

- ##### (3) 今後、人口減少やコンパクトシティ化が進む方向で推移することを考えると、拠点間移動を支える公共交通網と地域内の移動を支えるデマンド交通やコミュニティタクシーを組み合わせて交通手段を持たない方々に対応していくかなければならないと思いました。



写真は、コミュニティタクシーの停留所です。大型商店や病院の中に停留所をつくらせてもらうことも必要とのことでした。

下関市でも山を切り開いて造成した団地などにお住まいの方は、高齢になり車の運転もできなくなっていくなかで、移動手段の確保は重大課題になっています。学んだことを参考に、下関市でも通用する公共交通のありかたを検討していきたいと考えます。

以上